

## 様式第8号ア

(認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成に対する理念等に関する書類)

### (1) 大学・学科の設置理念

#### ①大学

東京農業大学は国内外でも類を見ない農学系の総合大学として、人類生存の基盤となる農業およびその関連産業を支える学問である農学、生命科学、環境科学、バイオ産業学など農学全般の教育研究に取り組んでいる。東京農大精神は「質実剛健」「独立不羈」「自彊不息」で、現代風に言えば「物質主義に溺れることなく、心身ともに健全で、いかなる逆境にも挫けない気骨と主体性の持ち主たれ」ということである。また本学のモットー「実学主義」は、社会が実際に必要とする研究を重視する実用的で実際的な学問のあり方を意味する。

#### ②学科等（教職課程を有する学科のみ）

社会科学、とりわけ経済学的手法を用いて、「農業」「食料」及び「環境」を取り巻く課題を地域的・国民的視点、さらには国際的視点から究明し、もって「新たなフードシステムの構築」及び自然と人間の共生を軸とした「持続的な循環型社会の構築」に資する人材を養成する。

### (2) 教員養成に対する理念・構想

#### ①大学

初代学長横井時敬は「人物を畑に還す」と言った。この言葉通り本学は開学以来全国から若者を集め、地域に貢献する人物となるよう教育してきた。教員養成においても同様で、履修者が卒業後に全国各地で教育者として活躍することを目標とし、この東京農大精神と実学主義のもと、豊かで実践的な知識と技能を身につけた心身ともに健全な教員の養成を目指している。

今日、生命科学は進歩が速く、農学や環境科学には社会からの期待が大きい。本学教職課程ではこのような動向を踏まえ、学部段階では学科の基礎と教員としての基本的かつ実践的な知識と技術を習得させる教育を行う。

#### ②学科等

食料環境経済学科では、主として社会科学の手法を基礎としながら、多角的な視野から社会問題をとらえ、教育現場で実践的に活躍できる人材育成を行う。ローカルな価値観を重視する地域的な視点、国全体の共益を実現していく国民的な視点、さらにはグローバル化時代のなかで地球全体の持続性を確保していく国際的な視点というように、社会問題の背景にある多様な見方を醸成していく。また、様々な実習や演習さらには講義等を通じて、学生が能動的に学んで自らの人間性を高めていくことの重要性を認識するとともに、授業の指導力のみならず、学級運営、行事企画、生徒指導、進路指導にも的確な指導力を発揮して、生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばしていく教員の養成をめざす。

大学全体として農学教育の一端を担っている本学科において、「農」を通じて教育することの意義と価値を理解・実践できる人材を養成する。生物を扱うことで、いのちの大切さを改めて認識し、様々な教育的課題に対処できる教員を養成する。また、作物や家畜を育てることを通じて、職業としての教育者の責任感ややりがいを体得する。

### (3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごと）

#### 高等学校農業科

専門的職業人としての農業経営者を育成するためには、社会科学的な視点が欠かせない。とくに、農業経済、農業経営、農政などの面で十分に指導できる人材が必要である。農産物は工業製品などとは異なる性質をもっており、需要側・供給側双方の特性をふまえて、価格決定の仕組みや生産計画を立てる必要がある。また、社会の実情に合わせるため農政は変化が著しく、最新の情報に通じているとともに、変化の状況を調べることのできる能力も必要である。このようなことを理解した上で、生徒を指導できる人材を本学科で育成する。

農業高校を卒業してすぐに就農する者が限られている状況のなかで、農業に関連するような部門で幅広く活躍する人も求められている。そうした指導を可能にするためには、農産物の生産部門だけではなく、流通、消費、さらには廃棄物や農村景観などといった環境との関連も含めたフードシステムの理解が重要である。本学科では、以上を理解した上で生徒を指導し、地域経済・社会を支える職業人を輩出しようとする人材育成を行う。